



2019年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年7月30日

上場会社名 株式会社 王将フードサービス
 コード番号 9936 URL <https://www.ohsho.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 直人

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 広報部長 (氏名) 内田 浩次

TEL 075-592-1411

四半期報告書提出予定日 2018年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第1四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	19,635	7.6	1,492	77.7	1,573	74.7	1,013	79.3
2018年3月期第1四半期	18,242		839		900		565	

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 1,562百万円 (55.0%) 2018年3月期第1四半期 1,008百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	54.14	
2018年3月期第1四半期	30.19	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	63,583	46,561	73.2
2018年3月期	65,102	46,122	70.8

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 46,561百万円 2018年3月期 46,122百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		60.00		60.00	120.00
2019年3月期					
2019年3月期(予想)		60.00		60.00	120.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	40,140	4.3	2,572	1.3	2,799	6.2	1,790	4.7	95.62
通期	81,195	3.9	5,731	4.1	6,095	5.4	3,924	7.4	209.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期1Q	23,286,230 株	2018年3月期	23,286,230 株
期末自己株式数	2019年3月期1Q	4,563,663 株	2018年3月期	4,563,626 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期1Q	18,722,595 株	2018年3月期1Q	18,722,771 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

＜ 連結経営成績サマリー ＞			
	金額	構成比	前年同期比
売上高	19,635百万円	100.0%	7.6%増加
営業利益	1,492百万円	7.6%	77.7%増加
経常利益	1,573百万円	8.0%	74.7%増加
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,013百万円	5.2%	79.3%増加
<ul style="list-style-type: none"> ・全店客数前年同期比8.4%増(既存店5.0%増)…直営店実績 ・既存店売上高対前年同期比4.1%増収…直営店実績 			

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業部門では、輸出増加を背景に生産の増加基調が続き、企業の概況は改善を続けております。また、家計部門では景気回復の長期化による雇用・所得環境の改善もあり、個人消費の緩やかな持ち直しが続けておりますが、一方で物価上昇、先行きの不透明感による消費者マインドは依然として厳しく、さらに海外経済の不確実性や金融市場の変動に留意する必要があるなど、先行きは決して予断を許さない状況にあります。

外食業界におきましては、高付加価値メニューの堅調や価格改定などで客単価の上昇が続いたものの、客数の減少に苦戦し、売上高の伸びが減速しております。また、深刻な人手不足により、労働需給は逼迫度を増しており、時給上昇に伴った人件費増が収益環境に影響を及ぼすなど、消費者の節約志向の継続も相まって、先行きは依然不透明であります。

このような状況下当社グループは、「お客様感謝キャンペーン第2弾」が好評を博した事や、王将大学、調理道場の創設による従業員教育の徹底により店舗QSCが向上しリピート客が増加した事、全店統一メニューとしての日本ラーメンのリニューアル、冷麺(冷やし中華)の発売、毎月限定のフェア商品の販売などのメニュー内容を強化した事などにより、客数が大幅に増加となり、過去最高の売上高を達成する事ができました。

また、多様化する顧客ニーズに対応した新たな挑戦としてリリースした、新公式スマートフォンアプリ「餃子の王将アプリ」は、40万ダウンロードを超え、多くの反響とご好評をいただきました。今後もお客様に楽しんでいただける新機能を追加し、当社とお客様をつなぐ有力な媒体に育成してまいります。

6月22日より「第3弾 創業50周年お客様感謝キャンペーン」を開始した事により、6月後半よりさらに客数は伸びております。お客様が増えているこの時期にこそ「心温まる接客」「美味しい料理」を徹底する事で、1人でも多くの王将ファンを育成してまいります。

こうした中、この50周年の節目に、これまでの礎を築いてきた社員の尽力に対し、譲渡制限付株式を付与する事で感謝の意を伝える事を決定いたしました。この施策により、社員が株主の皆様と同じ目線で全社一丸となり、企業価値の継続的向上につながるものと考えております。

当第1四半期連結累計期間の店舗展開の状況につきましては、直営2店、FC3店の新規出店、FC5店の閉鎖を行っております。これにより当第1四半期連結会計期間末店舗数は、直営511店、FC225店となりました。

① 売上高

売上高は、客数が大幅に増加した事により前年同期に比べて13億93百万円（7.6%）の増収で196億35百万円となりました。

② 営業利益

営業利益は、増収となった事に加え、生産性向上による人件費率の減少や水光熱費の削減、減価償却費の減少等もあり、前年同期に比べて6億52百万円（77.7%）の増益で14億92百万円となりました。

③ 経常利益

上記理由等により、前年同期に比べて6億72百万円（74.7%）の増益で15億73百万円となりました。

④ 親会社株主に帰属する四半期純利益

上記理由等により、前年同期に比べて4億48百万円（79.3%）の増益で10億13百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ15億18百万円（2.3%）減少し、635億83百万円となりました。主な増減要因は次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ19億8百万円（13.4%）減少し、123億36百万円となりました。主な要因は現金及び預金の減少等であります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ3億89百万円（0.8%）増加し、512億47百万円となりました。主な要因は投資有価証券の時価の上昇に伴う増加等であります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ19億57百万円（10.3%）減少し、170億21百万円となりました。主な増減要因は次のとおりであります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ24億64百万円（16.4%）減少し、125億70百万円となりました。主な要因は短期借入金の減少等であります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ5億6百万円（12.8%）増加し、44億51百万円となりました。主な要因は長期借入金の増加等であります。なお、借入金の残高は62億50百万円となりました。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ4億39百万円（1.0%）増加し、465億61百万円となりました。主な要因は配当金の支払い11億23百万円による減少に対し、親会社株主に帰属する四半期純利益10億13百万円の増加に加え、その他有価証券評価差額金が増加した事によるもの等であります。以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の70.8%から73.2%となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ21億5百万円減少し、103億91百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べて10億87百万円(216.8%)増加し、15億88百万円となりました。主な要因は税金等調整前四半期純利益の増加であります。

主な内訳は、税金等調整前四半期純利益15億65百万円に減価償却費6億15百万円、未払消費税等の増加額2億1百万円等を加えた額から法人税等の支払額10億69百万円等を減じた額であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前年同期に比べて2億52百万円(43.0%)減少し、3億34百万円となりました。主な要因は有形固定資産の取得による支出の減少であります。

主な内訳は、有形固定資産の取得による支出3億39百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べて32億18百万円増加し、33億52百万円となりました。主な要因は短期借入金の減少であります。

主な内訳は、借入金の純減少額22億28百万円による支出及び配当金の支払額11億23百万円による支出であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2018年5月15日の「2018年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,496	10,391
売掛金	447	402
商品及び製品	123	135
原材料	307	347
その他	882	1,069
貸倒引当金	△11	△10
流動資産合計	14,245	12,336
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	52,391	52,543
減価償却累計額	△38,852	△39,257
建物及び構築物(純額)	13,538	13,286
機械装置及び運搬具	5,560	5,581
減価償却累計額	△3,229	△3,324
機械装置及び運搬具(純額)	2,330	2,257
工具、器具及び備品	5,719	5,829
減価償却累計額	△4,692	△4,790
工具、器具及び備品(純額)	1,026	1,039
土地	20,810	20,810
建設仮勘定	47	128
有形固定資産合計	37,752	37,521
無形固定資産	120	119
投資その他の資産		
投資有価証券	6,720	7,519
差入保証金	4,171	4,143
その他	2,125	1,976
貸倒引当金	△32	△32
投資その他の資産合計	12,983	13,606
固定資産合計	50,857	51,247
資産合計	65,102	63,583

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,170	2,015
短期借入金	3,000	—
1年内返済予定の長期借入金	3,016	3,292
未払法人税等	1,292	774
賞与引当金	923	479
その他	4,631	6,007
流動負債合計	15,034	12,570
固定負債		
長期借入金	2,462	2,957
資産除去債務	769	774
その他	712	719
固定負債合計	3,945	4,451
負債合計	18,979	17,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,166	8,166
資本剰余金	9,031	9,031
利益剰余金	38,867	38,757
自己株式	△10,824	△10,824
株主資本合計	45,240	45,130
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,108	4,664
土地再評価差額金	△3,286	△3,286
為替換算調整勘定	△3	△14
退職給付に係る調整累計額	62	67
その他の包括利益累計額合計	882	1,431
純資産合計	46,122	46,561
負債純資産合計	65,102	63,583

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上高	18,242	19,635
売上原価	5,506	5,962
売上総利益	12,735	13,672
販売費及び一般管理費	11,895	12,180
営業利益	839	1,492
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	31	36
F C加盟料	31	29
受取地代家賃	16	16
雑収入	22	21
営業外収益合計	102	103
営業外費用		
支払利息	6	4
貸貸費用	15	12
現金過不足	3	5
災害義援金	16	—
雑損失	0	0
営業外費用合計	41	22
経常利益	900	1,573
特別利益		
固定資産売却益	0	—
収用補償金	36	—
特別利益合計	36	—
特別損失		
固定資産除却損	16	7
特別損失合計	16	7
税金等調整前四半期純利益	920	1,565
法人税、住民税及び事業税	472	658
法人税等調整額	△117	△106
法人税等合計	355	552
四半期純利益	565	1,013
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	565	1,013

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	565	1,013
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	447	555
為替換算調整勘定	△1	△11
退職給付に係る調整額	△2	4
その他の包括利益合計	443	549
四半期包括利益	1,008	1,562
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,008	1,562
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	920	1,565
減価償却費	755	615
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	△1
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	2	10
受取利息及び受取配当金	△31	△36
支払利息	6	4
収用補償金	△36	—
固定資産売却損益(△は益)	△0	—
固定資産除却損	16	7
たな卸資産の増減額(△は増加)	△8	△52
仕入債務の増減額(△は減少)	△173	△154
未払消費税等の増減額(△は減少)	△336	201
その他	245	465
小計	1,358	2,626
利息及び配当金の受取額	31	36
利息の支払額	△6	△4
収用補償金の受取額	36	—
法人税等の支払額	△918	△1,069
営業活動によるキャッシュ・フロー	501	1,588
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	1	—
有形固定資産の取得による支出	△609	△339
有形固定資産の売却による収入	0	—
貸付けによる支出	△22	△3
貸付金の回収による収入	13	10
差入保証金の差入による支出	△32	△72
その他	62	70
投資活動によるキャッシュ・フロー	△587	△334
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△3,000
長期借入れによる収入	2,249	1,710
長期借入金の返済による支出	△1,259	△938
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△1,123	△1,123
財務活動によるキャッシュ・フロー	△133	△3,352
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△7
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△220	△2,105
現金及び現金同等物の期首残高	11,741	12,496
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	124	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,645	10,391

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。